

名古屋市立大学 SDGs活動レポート (2021年度版)



SDGs IDEA FORUM 2021の開催について



<p>活動の概要</p>	<p>名古屋市立大学では、令和元年7月に「SDGs 未来都市」に選定された名古屋市と連携して、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取り組みを進めています。2020年度に引き続き、2021年度においても、名古屋市と共催で、SDGs達成に向けた名古屋市の地域課題を大学生のアイデアで解決に導く「SDGs IDEA FORUM 2021」を開催します。</p> <p>【SDGs IDEA FORUM 2021における名古屋市の5つの地域課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■人々が健康に生きられるまちづくり（SDG3,SDG11,SDG16） ■名古屋の子どもたちにSDGsを広めよう（SDG4,SDG17,SDG11） ■名古屋から食品ロスを減らそう（SDG2,SDG4,SDG12） ■多文化が共生できるまちづくり（SDG3,SDG10,SDG11） ■名古屋を生物多様性先進都市に（SDG13,SDG14,SDG15）
<p>活動の時期</p>	<p>2021年8月～2022年2月</p>
<p>関連URL</p>	<p>SDGs IDEA FORUM 2021</p>



名古屋市の地域課題を、大学生のアイデアで解決する。

名古屋市は、2019年に「SDGs未来都市」に選定され、SDGs達成のために市民が一体となって地域の課題を解決していくことが求められています。そこで、名古屋市にキャンパスを置く大学・短期大学の大学生から柔軟かつ革新的な発想を募集し、地域課題の解決を目指すプロジェクトをスタートします。



SDGs達成に向けた名古屋市の地域課題を公開。 学生が主体となり解決に向けたアイデアを募集。 アイデアコンテストを 優秀アイデアには経費無償で提供し取り組みを支援。

2021年度は5つの地域課題を選定。



主催：SDGs IDEA FORUM 実行委員会（名古屋市・名古屋市立大学）
 後援：中日新聞社 名古屋銀行 朝日インテック

本学学生がLGBTQ+をテーマとしたオリジナル絵本を保育園・幼稚園等で読み聞かせ



本学の経済学部 鶴飼宏成ゼミの学生たちが、LGBTQ+をテーマとして制作したオリジナル絵本『あおいくんのかみかざり』について、名古屋市内の保育園・幼稚園等で読み聞かせを行いました。

この絵本は、SDG5（ジェンダー平等を実現しよう）、SDG4（質の高い平等をみんなに）、SDG10（人や国の不平等をなくそう）に着目し、「性の多様性に理解のある子どもたちが増えてほしい」という学生たちの想いから制作されたものです。

◆絵本の詳細

『あおいくんのかみかざり』

- ・対象年齢：幼稚園年長～小学校低学年(5～7歳)
- ・発売日：2021年11月10日
- ・価格：2,090円（本体1,900円+税10%）
- ・出版社：三恵社

・販売場所：Amazon、丸善名古屋本店、名古屋市立大学生協

・内容：LGBTQ+の中の「T」（トランスジェンダー）がテーマ。小学1年生の《そらくん》が同級生の《あおいくん》がつけていた髪飾りを褒めるところから始まり、一人の男の子が性の多様性に気づいていく物語。



詳細は、以下の報道発表資料をご確認ください。

[学生制作オリジナル絵本\[テーマ：LGBTQ+\]と保育園・幼稚園等での読み聞かせ活動のご案内](#)

※本件は、2022年1月20日（木）のCBCテレビ「チャント！」で放送されました。

高知県立牧野植物園の植物コレクションから新たなメカニズムの抗がん剤として期待される成分の発見



活動の概要	<p>【研究の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小胞体ストレス応答（UPR）」の慢性的な活性化は、がんや糖尿病、神経変性疾患などの様々な疾患の発症や悪性化の原因となることから、UPRの制御異常を抑制する治療アプローチを開発しています。 ・世界的にも研究が進んでいないミャンマー産植物について、植物資源としての価値を開発しています。 <p>【研究の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県立牧野植物園が保有するミャンマー産植物由来抽出液ライブラリーを用いてUPR抑制作用をスクリーニングしました。 ・スクリーニングの結果、植物由来成分ペリプロシンがUPRを抑制することを発見しました。 ・ペリプロシンのUPR抑制作用は強心配糖体に固有の構造に強く相関することを見出しました。
活動の時期	2021年5月（論文発表）
関連URL	2021年6月4日プレスリリース
researchmap URL	https://researchmap.jp/read0094185
関連する論文	<p>“Periplocin and cardiac glycosides suppress the unfolded protein response” Muneshige Tokugawa; Yasumichi Inoue; Kan'ichiro Ishiuchi; Chisane Kujirai; Michiyo Matsuno; Masaki Ri; Yuka Itoh; Chiharu Miyajima; Daisuke Morishita; Nobumichi Ohoka; Shinsuke Iida; Hajime Mizukami; Toshiaki Makino; Hidetoshi Hayashi Scientific Reports 11 9528 2021年 5月 [査読有り]</p>
期待される効果、今後の展望	<ul style="list-style-type: none"> ・本研究で明らかとなったペリプロシンのがんに対する作用のほか、糖尿病や神経変性疾患などに対しても新しい治療薬となる可能性が考えられ、更なる研究の発展が待たれます。 ・創薬研究をはじめとする更なるミャンマー産植物資源の活用が期待されます。
所属	薬学研究科
氏名	林 秀敏
専門分野	薬系衛生、生物化学、腫瘍生物学

名古屋市立大学男女共同参画奨励賞



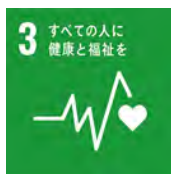
活動の概要	名古屋市立大学男女共同参画奨励賞は、公立大学法人名古屋市立大学における男女共同参画宣言の趣旨に鑑み、男女共同参画社会の実現に関連する優れた研究・活動等を行っている本学の教職員および学生等に対して、学長から表彰を行うものです。
活動の時期	2013年以降
関連URL	男女共同参画奨励賞

名古屋市立大学男女共同参画宣言・男女共同参画行動計画



活動の概要	<p>2012年3月16日開催の名古屋市立大学男女共同参画フォーラム「多様性のあるゆたかな社会をめざして―大学で男女共同参画を考える―」にて名古屋市立大学男女共同参画宣言を発表しました。</p> <p>また、本学の男女共同参画推進に対する行動計画を定めた「第4次男女共同参画行動計画」を策定し、本計画期間中には、女性上位職の登用推進とワーク・ライフ・バランスの実現に特に力を入れて男女共同参画の推進に取り組んでいます。</p>
活動の時期	<p>【男女共同参画宣言】2012年3月</p> <p>【第4次男女共同参画行動計画】2018年4月1日から2022年3月31日まで（1年延長）</p>
関連URL	<p>男女共同参画宣言・基本方針・行動計画・ポジティブアクション</p>

看護学生を対象とした「やさしい日本語」の教育



活動の概要	<p>保健医療の現場では、日本語を母語としない人びととのコミュニケーションがますます必要となっています。通訳の依頼や自動翻訳機の利用とともに、共通語としての日本語が注目されています。そのような中、日本語を母語としない人びととのコミュニケーションについて看護学生らが考えること、外国人にもわかりやすい日本語についての看護学生らの知識、スキルを調べています。さらに「やさしい日本語」についての教育を行い、その効果を検証しています。既存のガイドラインや手引を活用しながら、効果的な講義・演習方法を探っています。</p>
活動の時期	<p>2019年9月17日：日本語を母語としない人びととの日本語によるコミュニケーションについての予備調査 2020年8月14日：「やさしい日本語」ワークショップ 2021年11月19日：「やさしい日本語」講義（今後毎年継続）</p>
関連URL	<p>名古屋市立大学看護学研究科国際保健看護学WEBサイト</p>
researchmap URL	<p>https://researchmap.jp/read0145307</p>
関連する論文	<p>- 松浦未来, 荒川若菜, 服部記奈, 樋口倫代. 日本語を母語としない人びとへ医療情報を伝達するための看護学生のスキルおよび知識:予備調査と試験的介入. 国際保健医療. 2021; 36; in print.</p>
期待される効果、今後の展望	<p>予備調査では、看護学部4年生らは「やさしい日本語」に特化した知識は多く持ち合わせていませんでしたが、日本語を母語としない人びととコミュニケーションするスキルを一定程度有していました。そこで、現場でも有用となるたしかな知識とスキルが身につくことを目指し、現在は2年生の必須講義の1コマに「やさしい日本語」の講義・演習を取り入れています。また受講学生の同意を得て、効果をフォローする研究を実施中です。</p>
所属	看護学研究科
氏名	樋口倫代
専門分野	公衆衛生

2021年度 国連食糧農業機関（FAO）へのインターンシ ップ生の派遣



活動の概要	<p>国連食糧農業機関（FAO、本部イタリア・ローマ）は世界の農林水産業の発展と農村開発に取り組む国連の専門機関です。1945年に設立され、196の加盟国（2つの準加盟国含む）およびEU（欧州連合）から成り、食糧安全保障や飢餓撲滅運動等の持続的開発目標（SDGs）の達成を目指しています。本学は2010年にFAOとインターンシップ派遣に関する協定を締結し、2011年度より同機関の水産局にインターン生派遣を開始しました。2018年度より、同機関のインターンシッププログラム見直しにより、インターンの派遣先が全世界のオフィスに拡大されました。</p> <p>2021年度は、学生2名がFAOスリランカ事務所でのインターンシップおよびカンボジア事務所でのフェローシップにそれぞれ1ずつ参加しました。従事期間は約3か月で、オンラインで実施されました。</p>
活動の時期	<p>2011年度よりインターン生の派遣開始 2018年度よりインターンシッププログラム見直し 2021年度：派遣実績2名</p>
関連URL	<p>国連食糧農業機関(FAO)インターンシップ</p>

ダイバーシティ宣言・行動計画



活動の概要	名古屋市立大学では、平成20(2008)年に男女共同参画室を設置し、さらに平成26(2014)年にそれを男女共同参画推進センターに拡大して、男女共同参画の推進に力を入れてきました。その次の段階として、ダイバーシティを推進するため、平成30(2018)年にダイバーシティ推進本部を立ち上げました。そして平成31(2019)年2月にダイバーシティ宣言を発信し、令和元(2019)年度からダイバーシティ推進行動計画を定め、積極的に取り組みはじめました。
活動の時期	【ダイバーシティ宣言】2019年2月 【ダイバーシティ推進行動計画】2019年4月1日から2021年3月31日まで
関連URL	ダイバーシティ宣言・行動計画・推進体制

尿路結石患者の国内データ・バイオバンク設立研究(多施設共同前向き研究)



活動の概要	本研究は、尿路結石症患者の臨床情報と検体試料を集め、保存するための前向き登録研究です。本研究の目的は、臨床情報のみならず結石・腎組織・尿・血液から得られる情報において、尿路結石の形成につながる病態を明らかにすることです。さらに、データ集積管理システム(Research Electronic Data Capture: REDCap)への臨床情報の蓄積より、生体試料の解析結果と臨床アウトカムの関係を明らかにし、オーダーメイドの薬物治療を開発することができます。
活動の時期	2019年：8月 2021年：8月・12月
関連URL	https://www.nagoya-cu.ac.jp/media/20190912_seeds_taguchi.pdf
researchmap URL	https://researchmap.jp/kazumi.taguchi
関連する論文	<ul style="list-style-type: none"> • Taguchi K, et al. Genome-wide gene expression profiling of Randall's plaques in calcium oxalate stone formers. J Am Soc Nephrol 28:333-47.2017 • Tzou DT, Taguchi K, et al. Computed Tomography Radiation Exposure Among Referred Kidney Stone Patients: Results from the Registry for Stones of the Kidney and Ureter. J Endourol. 33: 619-624, 2019 • Taguchi K, et al. Ureterscopy-assisted puncture for ultrasonography-guided renal access significantly improves overall treatment outcomes in endoscopic combined intrarenal surgery. Int J Urol. 28:913-919, 2021.
期待される効果、今後の展望	尿路結石症は10人に一人が罹患し、世界3大疼痛としても知られる疾患です。有用な薬物治療が確立されておらず、社会的なニーズからこのような世界初の大規模データ・バイオバンクの設立に向けて従事してまいります。今後の展望として、多施設にて尿路結石症患者の登録を行います。臨床情報の解析及び生体試料情報との関連解析から、バイオマーカーの検索、病態責任遺伝子の同定を行い、個別の最適治療の確立を目指します。
所属	医学研究科 腎・泌尿器学分野
氏名	田口 和己
専門分野	尿路結石症・腎疾患・内分泌代謝疾患

CRYSTAL-J 研究

Clinical Registry of STones for Analyzing Lithogenesis in Japan

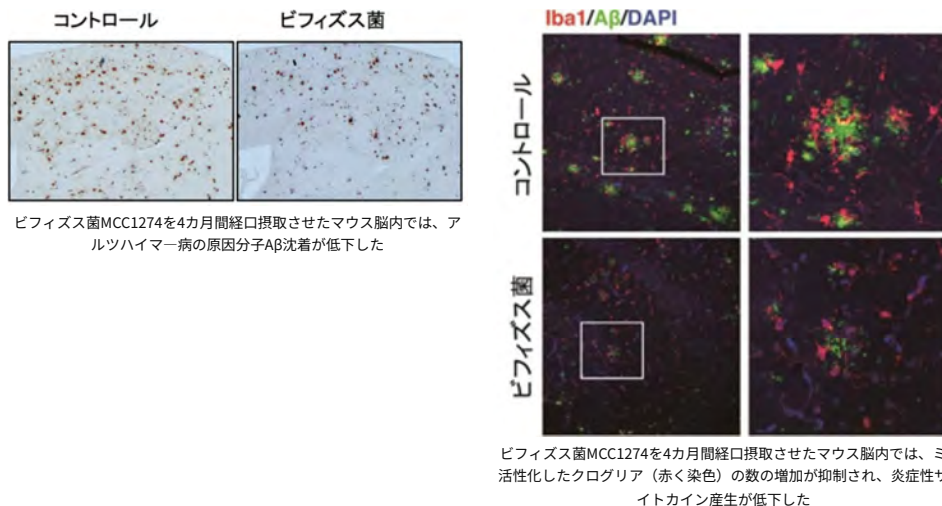


名古屋市立大学を含む国内6大学が基幹施設となっています。

天然食品成分ならびにプロバイオティクスなどの経口投与によるアルツハイマー病の発症ならびに病態進行の予防



活動の概要	アルツハイマー病の発症機構は解明されつつあり、分子病態の進行カスケードが明らかになりつつあります。このカスケードの鍵となる現象として、Aβの産生、分解・除去、tauのリン酸化、炎症等があげられます。このカスケードに食品由来成分やプロバイオティクスなどが病態進行を抑制的に関与することがわかれば、予防・治療法開発につながると考えられます。私たちの研究室では、培養神経細胞あるいは細胞株ならびにモデルマウスを使用して、各成分あるいはビフィズス菌などを添加または投与し、鍵分子であるAβ産生、Aβ分解・除去に働くapoE-HDL産生、tauのリン酸化、ならびに炎症に対する影響を検討する研究に取り組んでいます。すでに複数の会社との共同研究により、特許出願も複数に及びます。また、臨床研究についても進行中です。
活動の時期	・論文発表：2021年12月 ・プレスリリース：2022年1月
関連URL	http://www.med.nagoya-cu.ac.jp/1seika.dir/biochem1home.html
researchmap URL	https://researchmap.jp/makotomichikawa
関連する論文	Abdelhamid M, Zhou C., Ohno K., Kuhara T, Taslima F, Abdullah M, Jung C-G, Michikawa M. Probiotic Bifidobacterium breve decreases Aβ production via the upregulation of ADAM10 level and attenuates microglia activation I APP knock-in mouse model of Alzheimer's disease. J Alzheimers Dis, in press Abdelhamid, M., Jung, C. G., Zhou, C., Abdullah, M., Nakano, M., Wakabayashi, H., Abe, F., Michikawa M. Dietary lactoferrin supplementation prevents memory impairment and reduces amyloid-β generation in J20 mice J Alzheimers Dis, 74: 245-259, 2020. doi:10.3233/JAD-191181
期待される効果、今後の展望	●薬剤開発に比べて、食品成分やビフィズス菌投与は毒性がない、または低く、実用化への障害は少ない。 ●発症後にしか使用できない治療薬に比べて、予防的に摂取することが可能である点に強みがある。 ●動物で効果のあった成分については、ヒトでの臨床試験を検討する。現在臨床試験が進行中のものもある。
所属	医学研究科 神経生化学
氏名	道川 誠
専門分野	アルツハイマー病分子病態解明



本学人文社会学部の学生が「スマホでオフラインでも見ることができるポケット防災」を作成



活動の概要	<p>本学の人文社会学部の曾我ゼミの学生たちが、滝子キャンパスで学ぶ学生を対象に防災の情報を提供する「スマホでオフラインでも見ることができる新・ポケット防災」を作成しました。</p> <p>本学では、滝子キャンパスで学ぶ学生全員に防災情報が載っている持ち運び可能な「ポケット防災」を紙媒体にて配布していますが、曾我ゼミの学生たちはより携帯しやすいようにスマホに着目し、オフラインで閲覧可能な「新・ポケット防災」を作成しました。</p> <p>こちらは「防災用品リスト」「大学マップ」「ハザードマップ」などの情報が新たに追加された他、「誰一人取り残さない」を目標に様々なニーズを反映した内容にすることを心がけたり、やさしい日本語表記の冊子を別に作成したりするなどの工夫がされています。</p> <p>今後は従来のポケット防災の補足資料として、滝子キャンパスで学ぶ学生に配布する予定です。</p>
活動の時期	2021年度



SDGs IDEA コンテストを開催



活動の概要	<p>本学では、名古屋市と連携して、SDGs達成に向けた名古屋市の地域課題を大学生のアイデアで解決に導く「SDGs IDEA FORUM 2021」を実施しています。</p> <p>総数38件の応募アイデアのうち、厳正な書類選考を通過した優秀8チームが参加する「SDGs IDEA コンテスト」が2022年2月26日に本学さくら講堂で開催されました。</p> <p>当日は、参加した8チームによるプレゼンテーションが行われた他、本学SDGセンター副センター長でエコチル調査愛知ユニットセンター副センター長の榎原准教授（医学研究科）による講演等が行われました。</p>
活動の時期	2022年2月
関連URL	SDGs IDEA FORUM 2021



タシケント医学アカデミーとの学術交流協定締結 およ びウズベキスタン共和国駐日大使の来訪



活動の概要	<p>名古屋市立大学は、タシケント医学アカデミー（ウズベキスタン共和国タシケント市）と学術交流協定を締結し、2021年10月15日（金）にオンライン形式にて協定締結式を開催しました。先方よりアリシャール・シャドマノフ学長、アシソファ・フェルサ副学長、ムロド・ジャファロフ国際部長が、本学より郡学長、医学研究科の高橋研究科長と安井教授が参加し、今後の共同研究等をはじめとした交流について意見交換を行いました。</p> <p>また、協定締結式に合わせて、駐日ウズベキスタン共和国大使館のムクシンクジャ・アブドゥラフモノフ特命全権大使ご一行が本学を表敬訪問されました。その後、本学とウズベキスタン共和国内の大学との今後の交流について参加者らと話し合われました。</p> <p>※本件は本学広報誌『『創新』 Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年10月
関連URL	本学広報誌『『創新』 Vol.43

国際交流センター公式学生団体「NCU GO!」が Christmas Partyを開催！



活動の時期	<p>2021年12月12日（日）、国際交流センター公式学生団体「NCU GO!」により、留学生と日本人学生の交流を目的としたChristmas Partyが開催されました。本年度は十分な感染対策を行った上で対面で開催することができ、留学生と日本人学生合計約20名の学生が参加しました。和やかな雰囲気の中、ビンゴゲームやクイズ大会、プレゼント交換など楽しいイベントが行われました。コロナ禍では久々の対面でのイベント開催となり、留学生と直接コミュニケーションをとることができる素晴らしい機会となりました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年12月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.43

ジャウメ I 世大学（スペイン）と大学間交流協定を締結！



活動の概要	<p>名古屋市立大学は、ジャウメ I 世大学（スペイン）と学術交流協定および学生交流協定を締結しました。2021年12月2日（木）にオンライン協定締結式が開催され、両大学学長および関係者らが出席しました。ジャウメ I 世大学のエバ・アルコン学長は、「日本との関係強化に向け、さらなる一歩を踏み出した」、名古屋市立大学の郡学長は、「スペイン語圏の国々から多くの学生を受け入れたい」とあいさつしました。締結式の後は、ジャウメ I 世大学の教員や職員による「スペイン短期派遣研修説明会」が行われ、学部生・大学院生が参加しました。今後、スペイン語圏との学生交流が活発となることを期待しています。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年12月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.43

東ティモールパーツ大学との第2回オンライン交流講義 を開催！



活動の概要	<p>2021年11月11日（木）、本学看護学部の教室、パーツ大学公衆衛生学部の教室と同大学のフィールド実習サイトである2つの村をつないで交流講義を開催し、両校の学生、教員合わせて約250名が参加しました。本学からは、看護学部2年生3名が日本の保健師の仕事の紹介をし、看護学研究科博士前期課程2年生が東ティモールの公的データを使った研究結果を発表しました。パーツ大学からは、1年生と教員により公衆衛生学部の紹介があった後、村でのフィールド実習の様子について発表がありました。すべて英語で実施され、とても貴重な交流の機会となりました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年11月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.43

「日本語Talk Time～雅～」を開催！



活動の概要	<p>2022年1月12日（水）、国際交流センターと同センター公式学生団体「NCU GO!」、「よいしょ」が合同で「日本語Talk Time～雅～」をオンライン開催しました。このイベントは日本語での交流を目的としており、タイ、アメリカ、ドイツ、韓国の国際交流協定大学と名市大の学生あわせて55名が参加しました。教員と学生団体が企画した5つのブレイクアウトルームが用意され、参加者は各自興味のあるルームに参加する形式で行われました。特に参加者へ漢字の名前をプレゼントするコーナーでは大いに盛り上がりました。コロナ禍でも国際交流協定大学の学生とつながることができた貴重な機会となりました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年1月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.43

鶴舞中央図書館主催 絵本の読み聞かせイベントに本学 留学生3名が出演！



活動の概要	<p>2021年12月11日（土）に、鶴舞中央図書館の主催、本学国際交流センターの協力により、「せかいのことばでおはなし会」が開催され、本学の留学生3名がゲスト出演しました。2014年から毎年開催されており、今年で9回目の開催となりました。このイベントは、留学生がそれぞれの母語で絵本の読み聞かせをするというもので、本年は中国語、英語、韓国語で行われました。4歳前後のお子さんやその保護者の方計10名の参加があり、絵本の朗読の他、出身地の紹介やそれぞれの言葉で「ジングルベル」を一緒に歌うお楽しみ時間が設けられ、参加者みんなでの交流が行われました。イベント終了後には、出身地に関して留学生に質問をする子どもの姿も見られました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年12月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.43

国立台北護理健康大学との学術交流協定を締結しました



活動の概要	<p>2022年3月17日、国立台北護理健康大学（台湾）と学術交流協定を締結しました。オンライン形式にて交流協定締結式が開催され、両大学の学長はじめ、関係者が出席しました。国立台北護理健康大学の吳淑芳（ウー・シュー・ファン）学長は、「ウィンウィンの関係を築いていけることを確信している」、本学の郡理事長は、「分野を問わず、大学全体として実りのある今後の交流に期待する」と述べました。</p> <p>また締結式後には、先方大学の「研究開発センター」と本学看護学研究科の共催により、オンラインセミナーが開催され、それぞれの大学の教員と博士課程学生が発表を行いました。セミナーには双方の教員と学生が多数参加し、大変実りのあるものとなりました。今後ますますの交流が期待されます。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.44（2022年6月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年3月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.44